京都熱学株式会社
URL: http://www.kyonetsu.net/
〒615-0007 京都市右京区西院上花田町6番地の8
TEL: 075-321-0821 FAX: 075-314-6334
Mail: kyonetsu@kyoto.zaq.ne.jp

工場向けに省エネ診断を提案

京都熱学

水蒸発冷風・加湿システムも

空調設備工事・保守サービスの京都熱学（会長兼社長＝平松敏啓氏、本社・京都市右京区西院上花田町6－8）は製造業向けに空調機器や産業冷熱機器の施工、保守・メンテナンスサービスを手掛けている。同社は今夏、製造業の工場向けに省エネ診断を提案し、エネルギー使用状況の無駄を可視化するサポートビジネスを強化する。診断の結果、あぶり出された空調エネルギー使用時の無駄について、同社ならではの視点でソリューション提案を実施。工場建屋内の空調・産業冷熱機器の更新提案や運用改善を促す。工場内での夏季の暑気対策や冬季の乾燥・静電気対策で、気化式冷却による水蒸発涼風・加湿システムを提案する手法も盛り込む。

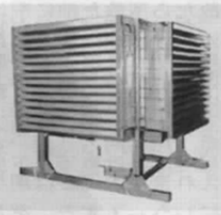
黒河　章乃係長

安田　渉専務

京都熱学はダイキン空調機特約店であることから、省エネ診断の実施に当たっては、ダイキン工業のグループ会社と連携してダイキンの診断スキームを活用する。安田渉専務は「製造業のお客さまは限られた予算の中で設備投資をしなければならない。突発的にエアコンが壊れてしまった場合に即対応できないこともある。逆に急な引き合いではメーカー側にお客さまがお求めになる機器の在庫が無いかもしれない。それ故、当社は事前の省エネ診断を通じて、お客さまに設備に対する意識を高めてもらい、今夏もしくは来夏に向けた機器の更新提案の切り口にしていく」と話す。

一方、同社は約10年前に気化冷却式の水蒸発涼風機・加湿機「うちみずくん」（受注対応品）を自社開発したメーカーでもある。最近、建物内を負圧にしている印刷工場で複数のエアコンプレッサーの排熱が熱溜まりとなり、生産ラインの作業者にとって暑気となっているため設備用エアコンを導入したいという引き合いが京都熱学に寄せられた。その際、同社は単に設備用エアコンの大容量機を売り込むことをせず、換気装置に工夫を凝らして空調負荷を和らげる省エネ手法を提案した。

具体的には、「うちみずくん」に使用している気化式冷却パッドを給気プアンのフィルター流入側に取り付けて水道水を浸透させ、給気が冷却パッドを通過する際の気化熱で給気を一次冷却して室内側に取り込む「陽圧化による涼風システム」を紹介。これによりエアコンを小容量化したり、低負荷運転したりする仕組みを提案した。印刷工場の設備関係者が興味を示し、現在商談が進んでいるという。『うちみずくん』は夏季の気化冷却用途だけで無く、冬季の乾燥対策や静電気対策としても活用できる。実際に導入いただいた工場で重宝されている」（安田専務）とし、同社は今回の印刷工場の案件を通して、水蒸発涼風・加湿システムが工場の省エネ対策で定番的に有効なツールであることを再認識した形だ。


「うちみずくん」の一例

他方、同社は社内の働き方改革にも前向き。現在フレックスタイム制を試験的に導入している。育児しながら活躍する女性従業員や、育児に参加したい男性従業員の就業環境に配慮した勤務体系を構築。有能な人材の離職者を減らす効果が着実に表れているという。実際、小学校低学年の子供を持つ主婦である工事部工事課の黒河章乃係長は「フレックスタイム制による出勤以外にも、半日有給を認めてもらえる。育児と仕事を両立する上で非常に有り難い」と話している。